

《 経 営 理 念 》

社会福祉法人東京都福祉事業協会は、人の幸せを求めて事業に取り組んでまいります。

それは、利用者の幸せ、利用者の家族の幸せ、地域住民の幸せ、そして、これらを支える職員の幸せです。

《 経 営 方 針 》

1. 利用者一人ひとりの人格を尊重します。
2. 利用者の安全を確保し、その特性を大切にして、豊かな人間性を持った希望のもてる生活ができるように支援します。
3. 地域の人々との共生を重んじ、明るい街づくりに努めます。
4. 時代の要請をよく受け止め、利用者に選ばれる事業の実施に努めます。
5. 健全経営の実現を常に念頭に置き、効率的な施設経営体の確立に努めます。
6. 協会の事業を推進するため、職員の資質向上と働きやすい環境改善に努めます。
7. 職員一人ひとりには、社会人としての自覚を持ち、関係法令を遵守するとともに、自己研鑽に励み、各自役割を認識し、その権限と責任を組織一体となつて的確に果たしていくように努めます。

《 施 設 種 別 経 営 目 標 》

<保育所>

1. 事業・経営収支関係

- ① 経営の健全化を目指し、収支バランスの維持及び堅調な財政状態の確保に努めます。
- ② 施設有効活用の観点踏まえた定員確保のため、利用者ニーズの把握とサービスの充実に努めます。
- ③ 保育に支障がないよう、処遇上必要な施設建物設備の維持改善に努めます。

なお、指定管理者施設については、区に対し、整備を要請するなど連携を密にします。

2. 運営・処遇・業務関係

- ① 一人ひとりの子どもの最善の保育を考慮し、子どもの個性を十分伸ばして、豊かな人間性が育つよう援助します。
- ② 地域の人々や関係機関とともに、子育ての楽しさや大切さを共有し、地域の子育て家庭を支援します。
- ③ 保育サービスの質の向上のため、協会内他施設との情報交換等連携を強め、また、保育士等職員の資質向上及び経営参画意欲醸成に資するよう、研修の充実に努めます。
- ④ 認定こども園等の情報収集に努め、目指すべき保育を検討します。

<母子生活支援施設>

1. 事業・経営収支関係

- ① 経営の健全化を目指し、収支バランスの維持及び堅調な財政状態の確保に努めます。
- ② 定員確保のため、利用者ニーズに応え、区、福祉事務所への積極的な働き掛けを行います。
- ③ 利用者の生活に支障がないよう施設建物設備の維持改善に努めます。

なお、指定管理者施設については、区に対し、整備を要請するなど連携を密にします。

2. 運営・処遇・業務関係

- ① 利用者の自立に向けての支援を積極的に行うため、社会資源の活用等により意欲の向上に努めます。
- ② 福祉施設としてもつ機能を活用し、地域住民との交流に努めます。
- ③ 利用者支援の資質向上のため、協会内他施設との情報交換等連携を強め、また、職員の資質向上及び経営参画意欲醸成に資するよう、研修の充実に努めます。

<高齢者福祉施設等>

1. 事業・経営収支関係

- ① 経営の健全化を目指し、収支バランスの維持及び堅調な財政状態の確保に努めます。
- ② 施設有効活用の観点を踏まえ、利用率の向上を目指し、利用者ニーズに答えるとともに、サービスの充実に努めます。
- ③ 施設内の整理整頓など生活環境の向上、事務効率化の推進に取り組めます。
- ④ 利用者の生活に支障がないよう施設建物設備の維持改善に努めます。
なお、指定管理者施設については、区（市）に対し、整備を要請するなど連携を密にします。

2. 運営・処遇・業務関係

- ① 利用者への福祉サービス充実のため、残存能力活用、自立援助、介護事故防止等への積極的かつ周到的な取り組みを行います。
- ② 福祉施設として持つ機能を活用し、地域福祉の向上に努めます。
- ③ 福祉サービスの質の向上のため、協会内他施設との情報交換等連携を強め、また、職員の資質向上及び経営参画意欲醸成のため、研修の充実に努めます。

《 事 業 計 画 》

「経営理念」「経営方針」の実現を目指し、法人本部と各施設とが一体となって地域社会のニーズや福祉諸制度の動向を見究めつつ、各施設種別毎に定めた「経営目標」に沿って、各種事業を着実に推進していく。

特に本年度においては、会計監査人を導入し協会全体の運営について点検・確認を行うほか、高齢者施設の収支健全化に重点的に取り組む。

1. 法人機能の充実

(1) 会計監査人の導入

平成29年4月1日から新規施設(赤羽北のぞみ保育園及び赤羽北さくら荘)の運営を開始したことから、平成29年度決算において「サービス活動収益計」が30億円を超えることが確実視される。これに伴い、ガバナンス及び財務規律の強化を図るため、本年度より会計監査人を導入する必要があるため、会計監査人の設置に係る定款変更について、本年度第一回理事会及び定時評議員会において審議を提案する。

※(参考)

㊦「サービス活動収益計」28年度決算 → 2,807,303,379円
29年度決算見込み → 3,300,000千円

㊧社会福祉法第37条：「特定社会福祉法人（「サービス活動収益計」が30億円を超える法人）は、会計監査人を置かなければならない。」

(2) 福祉機器活用及び事務処理体制改善の検討

近年、情報通信、介護ロボット等の技術革新が進み、福祉分野でもこれを取り入れることによって、処遇面の充実、労働環境の改善、さらには人材不足への対応、といったことが期待されている。

協会は、現在14施設及びこれに付随する事業の経営を行っているが、どの分野にどのような機器の導入を図ることがより安全で効率的・効果的かといった福祉機器の活用のあり方について検討する。

また、併せて給与事務についてより効率的な事務処理体制についても検討するとともに、インターネットやメールに係る情報セキュリティの強化を図る。

2. 施設運営基盤の強化

(1) 新施設の経営安定化

赤羽北のぞみ保育園及び赤羽北さくら荘については、平成 29 年度事業開始に伴い多くの新規採用職員が配置されたことから、職員研修等を適切かつ着実にを行うとともに、今後必要な職員の確保を図り経営安定化を目指す。

(2) 高齢者施設の収支健全化

高齢者施設においては、平成 27 年度介護報酬改定等により一層厳しい収支状況が続いている。

このため、赤字が続いている長寿園及び東日暮里サービスセンターについては、昨年度本部も参画する経営健全化プロジェクトを立ち上げ、赤字要因の分析とその対策を明らかにするための検討を行っている。

特に、新規利用者の円滑な受入れを確保するため、全部署職員による再検討を通じ、収支状況改善の一つである稼働率の向上に努める。

3. 新保育指針への取り組み

保育所における保育内容については、10 年ぶりの改定が行われ、平成 30 年度より新保育所保育指針（平成 29 年厚生労働省告示第 117 号）が適用されることとなった。

今回は、①共働き世帯数の増加や児童虐待問題など子育て家庭を取り巻く環境の変化、②1・2 歳児の利用が急増している保育所利用状況の変化等に対応する改定が行われたので、今後この指針を踏まえた保育所の機能及び質の向上を図るため、より具体的な実施方法について検討を行う。

（改定内容）

- ①乳児・1 歳以上 3 歳未満児の保育に関する記載の充実
- ②保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけ
- ③子どもの育ちをめぐる環境の変化を踏まえた健康及び安全の記載の見直し
- ④保護者・家庭及び地域と連携した子育て支援の必要性
- ⑤職員の資質・専門性の向上

4. 人材確保

保育士、介護職員等の採用については、本部と施設の連携を密にし、ハローワーク、都人材センター、新聞折込広告、インターネット求人等に加え、地域の潜在的有資格者を対象にした広告等を積極的に行う。

また、協会の PR 方法等よりわかりやすく魅力のある求人内容となるよう検討する。

5. 職員研修の充実

これまで、新規採用職員研修、中堅職員研修、管理職研修を実施しているがこれを踏まえつつ、本年度は、①各事業の専門的援助技術、②職員の定着、③防災・防犯、④リスクマネジメント、⑤調理に係る衛生管理、⑥労働安全衛生等について研修内容の一層の充実を図ることとする。

保育所及び母子生活支援施設においては処遇改善加算Ⅱに係るキャリアパス研修について積極的に受講することとする。

また、協会職員の日常業務活動における課題等の改善・解決への取組みについて「実践研修報告会」、「ケース検討研修会」を開催することを目指す。

6. 老朽改築整備の検討

平成 28 年度末に完成した赤羽北のぞみ保育園・赤羽北さくら荘の合築施設整備が一段落を迎えたので、今後計画的な老朽改築整備の検討に着手する。

このため、特養長寿園（定員 80 名）及び王子隣保館保育園（定員 110 名）について、財源、立地場所、サービス動向等改築整備に係る諸問題の検討を行う。

7. 協会季刊誌の発行及び協会 100 年史の検討

協会職員間の一層の情報共有等を図るため、各施設の行事や日々の活動、地域貢献等の報告、協会のトピックス等を季刊誌として発行することとする。

また、協会 100 年史の作成に向けたデータ収集等を行う。

8. 理事会の開催

30年 6月	29年度事業報告・収支決算
30年 10月頃	30年度事業中間報告、補正予算
31年 3月	31年度事業計画・収支予算、30年度補正予算
随時開催	運営上の必要に応じて随時開催

9. 評議員会の開催

30年 6月	29年度事業報告・収支決算
30年 10月頃	30年度事業中間報告、補正予算
31年 3月	31年度事業計画・収支予算、30年度補正予算
随時開催	運営上の必要に応じて随時開催

10. 定例法人本部幹部会議

理事長、常務理事、法人本部幹部職員により毎週1回開催する。

11. 定例施設長会議

理事長、常務理事、各施設長、法人本部幹部職員が出席して毎月1回（原則として第1月曜日）開催する。

12. 施設・事業の運営

平成 30 年度当法人の運営する施設・事業は次のとおりであり、その各施設毎の個別具体的な利用者サービスへの取り組みについては、後述する各施設毎の事業計画のとおりである。

【保育所】

	直営施設					指定管理		計
	王子 隣保館 保育園	方南 隣保館 保育園	尾久 隣保館 保育園	八王子 隣保館 保育園	赤羽北 のぞみ 保育園	汐入と ちのき 保育園	上十条 南保育 園	
定員 (認可 定員)	122 (110)	132 (130)	204 (190)	84 (80)	100 (100)	135 (110)	110 (110)	887 (830)
現員	122	132	195	83	56	126	110	824
職員数	43 (36.5)	45 (37.1)	55 (49.4)	29 (25.6)	29 (24.7)	38 (35.4)	43 (36.6)	282 (245.3)

注 1：現員及び職員数（非常勤含む）は平成 30 年 2 月 1 日現在、職員数欄の（ ）については常勤換算数

【母子生活支援施設】

施設	定員	現員	職員数	備考
ハイツ尾竹	20 世帯・64	17 世帯・42	18 (15.0)	直営施設
浮間ハイマート	24 世帯・72	10 世帯・28	11 (9.1)	指定管理
板橋区立母子生活支援施設	20 世帯・60	12 世帯・28	13 (11.8)	
計	64 世帯・196	39 世帯・98	42 (35.9)	—

注 1：現員及び職員数（非常勤含む）は平成 30 年 2 月 1 日現在、（ ）については常勤換算数

注 2：ハイツ尾竹は定員の他にショートステイ 3 名（受託事業）

注 3：浮間ハイマートは定員の他に緊急一時保護 2 世帯

注 4：板橋立母子生活支援施設は定員の他に緊急一時保護 1 世帯

【高齢者福祉施設等】

(1) 特別養護老人ホーム

施設	定員	現員	職員数	備考
長寿園(特養)	80	79	61 (48.1)	直営施設
ショートステイ	2	0		
赤羽北さくら荘(特養)	144	114	90 (83.9)	
ショートステイ	16	4		
計	242	197	151 (132.0)	—

注：現員及び職員数（非常勤含む）は平成30年2月1日現在、（ ）については常勤換算数

(2) デイサービス

施設	定員	現員	職員数	備考
赤羽北さくら荘デイサービスセンター			22 (16.8)	赤羽北さくら荘に併設、直営施設
通所介護（一般型）	35	33		
通所介護（認知症型）	12	3		
東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター			26 (20.1)	指定管理、単独施設
通所介護（一般型）	40	23		
通所介護（認知症型）	12	7		
高齢者在宅サービスセンター長沼			38 (28.2)	
通所介護（一般型）	35	23		
通所介護（認知症型）	12	5		

注1：現員は平成30年2月1日を含む週の利用平均、職員数（非常勤含む）は平成30年2月1日現在、（ ）については常勤換算数

注2：赤羽北さくら荘のセンター長は特養施設長が兼務（職員数に含まず）

(3) 地域包括支援センター (受託事業)

施設	職員数	備考
地域包括支援センター 長沼	10 (9.1)	高齢者在宅サービスセンター 長沼に併設
浮間さくら荘地域包括支援 センター	7 (6.5)	赤羽北さくら荘に所属
赤羽北地域包括支援センタ ー	8 (7.5)	

注1：職員数（非常勤含む）は平成30年2月1日現在、（ ）については常勤換算数

注2：当事業のセンター長は各施設の施設長・センター長が兼務（職員数に含まず）

(4) 居宅介護支援 (直営事業)

施設	定員	職員数	備考
赤羽北さくら荘ケアプラ ンセンター	117	3 (3.0)	赤羽北さくら荘に併設
居宅介護支援事業所長沼	105	3 (3.0)	高齢者在宅サービスセ ンター長沼に併設

注：職員数（非常勤含む）は平成30年2月1日現在、（ ）については常勤換算数

(5) 訪問介護 (直営事業)

施設	利用対象者	職員数	備考
赤羽北さくら荘ホームヘル パーステーション	担当地域内 居住者	20 以内	赤羽北さくら荘に併 設

【放課後児童健全育成事業】（受託事業）

施設	定員	現員	職員数	備考
三日小学童クラブ	60	63	14 (6.9)	第三日暮里小学校内
放課後子ども教室 (にこにこすくーる)	登録者数 142	18		

注1：現員及び職員数（非常勤含む）は平成30年2月1日現在、（ ）については常勤換算数

注2：放課後子ども教室の現員については平成30年2月1日を含む週の利用平均